

情報ナビ[たいむ] Time

やさしい旅ヘルプ

社会資源活用し楽しもう

1998年の長野冬季五輪は「日の丸飛行隊」がラージヒルで大ジャンプを見せ国民を勇気づけた。続いて長野パラリンピック大会も開かれた。

私たちは、会場周辺のバリアフリー環境をチェックしようと視察に入った。競技場はもちろん、周辺の鉄道、道路、ホテルなども伺い、大会までの整備計画などを教えてもらった。国際空港からの動線を確認し、観光施設なども対象にした。

長野では国宝の善光寺にいち早く車いすスロープが設置された。無機質な設備では興ざめたが、本堂と一体化して全く違和感がなかった。なかなか整備の進まないバリアフリー環境も、



東京・浅草もバリアフリー化に熱心だ

イベント契機に整う環境整備

ビッグイベントがあると一気に整う。経済的に採算が合うなら五輪も万博も歓迎だ。

現在は出雲大社や高千穂、伊勢神宮なども車いすで行ける。四国の金毘羅さんには785段を担いで上げてくれる石段駕籠（かご）がある。ちよつと値が張るが、足の弱い人が風情も楽しめるいいサービスだ。

寺社では募参りも忘れてはならない生活文化で、そうした暮らしの伝承を体が不自由になっても行えるようサポートする仕組みが必要だ。

被災した東北だが、バリアフリーに熱心な観光地も多い。先日、仮設住宅に避難している方々をいわき市のスパリゾート

トハワイアンズに案内した。元気に自立生活している高齢者だったが、利用する、しないにかかわらず、配慮のある設備や表示を見れば安心できる。

東京スカイツリーが開業した。隅田川から見るツリーは格別で、屋形船や人力車との組み合わせも楽しい。モダンなデザインのリパークルーズもあり、浅草近辺は車いすを利用する人にも親切だ。

そうした社会資源を活用して、介護が必要になっても外出や旅を諦めずに楽しんでほしい。今年はロンドンでオリンピックとパラリンピックが開催される。日本からもトラベルヘルパーがアシストするが、開催後の整備が進んだ町を訪ねるのは楽しみだ。（日本トラベルヘルパー協会理事長・篠塚恭一）